



長岡はなぜ「長岡」なのか ～地名に刻まれた歴史～

2023年7月1日 長岡市歴史文書館開館記念講演 より
(講師 長岡高専 田中聡教授 歴史文書館・講堂)

春日記

はじめに
講演内容 序論
本論(講演の結び)
瑞祥地名としての長岡

好字二字令について
誰が、はじめに長岡と命名したか(春日の感想)

はじめに

長岡という地名は、長岡市2004年発行の「長岡歴史事典」でも、『信濃川が土砂を押し流して右岸に堆積した南北に長い台地(自然堤防)を長岡と称した。その呼称は早くから成立していたと思われる。…坂戸城主であった堀直苛が堀鶴千代の後見役として蔵王堂城に在城したとき、この台地を開いて新しい城の築城と町づくりに入った。

慶長10年(1605)5月堀甲斐守が直苛の意を受けて蔵王の渡し舟を長岡へ引き渡すことについて渡し守への給付米を前々のとおりに安堵した書状に初めて「長岡」が見える。

このころ台地に造られつつあった城や町を長岡城、長岡町と称したようである。』とある。

このような見方のなかで、講師の長岡高専 田中聡教授は、別の観点からの話をされた。

今年七月は、第四北越銀行長岡営業部と企業ミュージアムとともに、長岡市の現代版「国漢学校・互尊文庫」などの複合施設が入る、「米百俵プレイス ミライエ長岡」という、新しい交流施設が誕生する。そのミライエという未来志向にも関連した、『長岡= 永遠、Eternal Land』というスケールの大きな話であった。

講演内容 序論

長岡は信濃川のたまもの、という概要のお話から、本論へ。
長岡市歴史文書館開館記念にふさわしいご講演だった。

序論として「概要」

中世都市 蔵王堂

○宗教的拠点性：蔵王信仰の中心。石内の時宗・極楽寺
(もと「蔵王堂極楽寺」)の存在。六十六部回国聖が蔵王堂で納経(法華経)。

熊野本宮や伊勢神宮の信者の存在

○政治的拠点性：南北朝内乱で戦場となる。越後守護代・長尾氏のなかに
「蔵王堂豊前守」を名乗る人物が確認される。

○経済的拠点性：蔵王堂東西町の存在。

六日町一堀之内、堀之内一小千谷、小千谷一蔵王堂の信濃川舟運。

対岸でも蔵王を冠した地名が散見される

信濃川の河川特性

○信濃川水系河床高・川幅縦断図より

勾配の変化 1/4,000 から 1/3,000 に、長岡で変化。

扇状地の終わりが長岡の地。

上流の船、下流の船の違いから、荷の積み替えが必要で、
その作業で賑わい、物流の中継拠点として繁栄した。

本論(講演の結び) ~ 田中館長は、田中聡教授のこの話を、参加の皆さんに聞かせたかったのでは

おわりに ……まさに長岡= 永遠、Eternal Landに相応しい名称

○慶長年間、「長岡」(長しえの岡)と命名したのではないか
全国各地に「長岡」の地名

○天明元年(1781)、牧野忠精の時代、蒼柴神社一帯を「悠久山」と命名
「悠久」中庸章句第二十五章

○平成16年(2004)に発生した中越地震からの復興の合言葉=
「フェニックス」(不死鳥)

○令和5年(2023) 7月22日、「米百俵プレイス ミライエ長岡」オープン

~ (春日私見) 上記の4つの言葉とともに、常在戦場、米百俵も、
未来指向の言葉として、ふさわしいのでは。

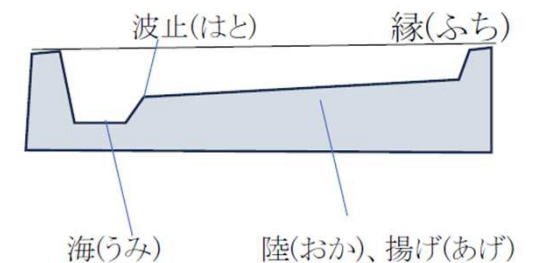
「何としても厳しい時代を乗り越えなければ」、という覚悟。

瑞祥地名としての長岡

長い岡 ではなく、「長(とこ)しえの岡」(悠久の大地)

- 「長」は距離的な長さではなく、
時間的な長さを意味するものと考えた方がよい
「悠久」
- 「岡」は小高い台地を意味するほか、水辺の土地を意味する場合もあるが。
～ ※参考図 硯の岡と「岡」
- 「長岡」は、古代の郡郷名としてしばしば採用された地名
(「長岡」=好字二字の代表) 好字二字令(※)

※参考図 硯の岡と「岡」



713年(和銅6年)の好字二字令

当時の先進国であった唐の地名の多くが、「長安」などいい意味の漢字2字だったことから、それに合わせ、体裁を整えようとしたと思われる。国の名前は、この勅令の少し前から、好字二字に置き換える動きがあったともいわれている。この命令の適用範囲は、山の名前などにも及んだ。

補足 ~ よく云われている「妙高」について

山名は、古くは「越の中山」(こしのなかやま)と呼ばれていたものが、好字二字令により「名香山」と当て字され、それが「みようこうざん」と読まれるようになり、「妙高山」の字が当てられたと言われています。

この話は、かなり以前に、田上の椿寿荘の椿鑑賞に訪問した折、管理人のかたから教わって、記憶に残っている話です。
今思うと、その管理人さんは、観光ガイドの模範ですね。



近隣の日本百名山に、妙高山(2,454m)、火打山(2,462m)、高妻山(2,353m、別名戸隠富士)。
妙高山と高妻山は、戸隠連山国立公園、火打山は、上信越高原国立公園に属している。

『妙高山は古くは「越(こし)の中山(なかやま)」と呼ばれた。
その中山が名香(なか)山となり、名香山では漢詩などに
詠み込むのに具合が悪いので、音読みして名香山(みょう
こうざん)となり、さらに字を飾って妙高山となった。
現にこの山の麓には、名香山(なかやま)村の名を存している』
「日本百名山」 深田 久弥薯より

- 1901年(明治34年) 中頸城郡妙高村、関川村、境村(一部)が
合併して、名香山村(なかやまむら)が発足。
- 1955年(昭和30年) 名称を妙高々原村に変更。
- 1956年(昭和31年) 中頸城郡杉野沢村と合併し、町制施行して
妙高々原町となる。
- 2005年(平成17年) 妙高村と共に新井市に編入され、同日新井
市が妙高市へ改称された。

誰が、はじめに命名したか

慶長年間に、「長岡」(長しえの岡)と命名されたようだ。

～ では、命名したひとは、誰でしょう。春日説として。

長い間、上杉の主導権争い、ほか、いろいろな抗争で荒れはてた越後に、「これからの世に幸あれ」と、祈ったのは、誰か。

慶長年間に「長岡」が定着 ～ 堀氏か？

堀氏の越後統治

堀秀政(堀久太郎)

信長に寵愛され秀吉に信頼され、
最終的に越前国北ノ庄の大名。

堀秀治 ～ 秀政の子。

天正18年(1590年)、家督を継ぎ、
慶長3年(1598) 秀吉が上杉景勝
を会津に移すと、
堀秀治が春日山城に入る。

堀直寄

長岡藩主、村上藩主。父は直政。

父に従って秀吉に仕え、

堀秀政・秀治父子に属した。

慶長5年8月の上杉遺民一揆の
鎮圧に功あり、家康・秀忠の
賞を受ける。

7年蔵王堂城主(長岡市)堀
鶴千代(秀治の子)の後見役。

講演資料

○慶長10年(1605)『急度申遣候・・・』、の堀直寄の書面に、地名としての「長岡」が初めて見える。

講演資料

○慶長7年に、坂戸城主の堀直寄が、蔵王堂城に幼い城主の後見役として入る。

上杉時代に、越後は戦禍に明け暮れて
いました。

上杉、長尾の越後全土で争い・内乱

上杉謙信の越後統一（1551～但し、戦争の連続）

跡目争いの御館の乱 天正6年（1578年）

上杉遺民一揆の動乱 慶長5年（1600年）

堀氏一族による鎮圧

慶長年間、「長岡」（長しえの岡）と命名したのは

上杉時代に、越後が戦禍に明け暮れていたのを知っていたであろう、
堀秀政・秀治父子、堀直寄
のいずれかではないかと、思いました。